

東北厚生局長 殿

山形大学医学部附属病院長
久保田 功

山形大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和 23 年法律第 205 号)第 12 条の 3 の規定に基づき、平成21年度の業務に
関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)

3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	124 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	329 人	11 人	333.6人	看護補助者	24 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	18 人	0 人	18.0人	理学療法士	6 人	臨床検査技師	31 人
薬剤師	25 人	0 人	25.0人	作業療法士	4 人	衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0 人	0.0人	視能訓練士	2 人	その他	0 人
助産師	12 人	0 人	12.0人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	487 人	7 人	492.4人	臨床工学技士	7 人	医療社会事業従事者	2 人
准看護師	0 人	0 人	0.0人	栄養士	1 人	その他の技術員	4 人
歯科衛生士	1 人	0 人	1.0人	歯科技工士	1 人	事務職員	90 人
管理栄養士	5 人	1 人	5.8人	診療放射線技師	25 人	その他の職員	61 人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	471.5 人	7.1 人	478.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,037.2 人	49.0 人	1,086.2 人
1日当たり平均調剤数	567.6		剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患のDNA診断	8人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1)「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年
厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	53人	・ウェゲナー肉芽腫症	6人
・多発性硬化症	30人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人
・重症筋無力症	30人	・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシヤイ・ドレーガー症候群)	24人
・全身性エリテマトーデス	98人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・スモン	2人	・膿疱性乾癬	4人
・再生不良性貧血	21人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・サルコイドーシス	35人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・筋萎縮性側索硬化症	24人	・重症急性膵炎	2人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	71人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・特発性血小板減少性紫斑病	17人	・混合性結合組織病	25人
・結節性動脈周囲炎	19人	・原発性免疫不全症候群	5人
・潰瘍性大腸炎	141人	・特発性間質性肺炎	7人
・大動脈炎症候群	4人	・網膜色素変性症	20人
・ビュルガー病	10人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・天疱瘡	10人	・神経線維腫症	17人
・脊髄小脳変性症	25人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・クローン病	54人	・慢性血栓栓性肺高血圧症	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・ライソゾーム病	1人
・悪性関節リウマチ	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	73人	・肥大型心筋症	2人
・アミロイドーシス	2人	・ミトコンドリア病	3人
・後縦靭帯骨化症	14人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	71人
・ハンチントン病	6人		
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	21人		

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	18回/年
部 検 の 状 況	部検症例数 23 例 / 部検率 8.36%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
転写因子MafB遺伝子改変マウス作成による喫煙肺気腫の病態研究	柴田 陽光	第一内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
HMG1の心筋梗塞縮小効果の検討:新しい血管新生治療の開発	久保田 功	第一内科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費
CCL1遺伝子改変マウス作成による呼吸器感染症の病態研究	井上 純人	第一内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
動脈硬化性アテロームの進展および破綻におけるMafBの役割の解明	渡邊 哲	第一内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
心不全発症におけるSUMO修飾によるシグナル伝達制御の検討	宍戸 哲郎	第一内科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費
RNAスクリーニングによるC型肝炎ウイルス感染成立に寄与する宿主因子の探索	渡辺 久剛	第二内科	900,000	補委	文部科学省科学研究費
C型肝炎ウイルスNS3蛋白質と宿主病態制御分子の相互作用に関する研究	齋藤 貴史	第二内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
生活習慣を考慮した、糖尿病、高血圧、等の生活習慣病の危険遺伝子の解析	大門 眞	第三内科	500,000	補委	文部科学省科学研究費
パーキンソン病におけるリン酸化 α -シヌクレインとドパミン代謝異常に関する解析	小山 信吾	第三内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
耐糖能障害は悪性新生物罹患の危険因子となりうるか、舟形町疫学研究	大泉 俊英	第三内科	700,000	補委	文部科学省科学研究費
先天性好中球減少症におけるG-CSF受容体遺伝子異常の臨床的・生物学的意義	三井 哲夫	小児科	500,000	補委	文部科学省科学研究費
遺伝性ニューロパシーの病態解明	早坂 清	小児科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
年齢依存性てんかん性脳症の分子病態解明と分子シャペロン療法開発	加藤 光広	小児科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
先天性中枢性低換気症候群の病態について:PHOX2B変異とハプロタイプ	佐々木綾子	小児科	1,900,000	補委	文部科学省科学研究費
がん分子標的薬のポジロン断層法による適応・効果判定法に関する基礎的検討	吉岡 孝志	腫瘍内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費
幼少時期に受けた両親からの養育的要因が、人格特徴・対人関係感性に与える影響	大谷 浩一	精神科	100,000	補委	文部科学省科学研究費
メチル化診断チップによる肺癌の分子診断法の確立と発癌リスク評価	遠藤 誠	第二外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
皮膚におけるTNF- α 変換酵素の機能解析	川口 雅一	皮膚科	2,100,000	補委	文部科学省科学研究費
硝子体細胞-血管細胞連関による網膜血管環境安定化機構と糖尿病網膜症治療法開発	山下 英俊	眼科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
眼内増殖性網膜疾患病態における硝子体細胞の機能解析と新しい治療戦略	西塚 弘一	眼科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費
聴性定常反応を応用した新しい他覚的聴力検査法の開発とその有用性に関する研究	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	3,000,000	補委	文部科学省科学研究費
卵の若返りに関する研究「新しい不妊治療のストラテジー確立を目指して」	五十嵐秀樹	産科婦人科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
エストロゲン受容体 α と β を介した誘導型NO合成酵素発現調節に関わる共役因子の解析	堤 誠司	産科婦人科	2,500,000	補委	文部科学省科学研究費
癌幹細胞を標的とした卵巣癌における新しい分子標的治療の開発	太田 剛	産科婦人科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
卵巣癌の間葉系幹細胞の同定と機能解析-その分子標的治療に向けての基礎的研究	倉智 博久	産科婦人科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
小計 25					
閉経後女性における内臓脂肪蓄積のメカニズムの解析	高田 恵子	産科婦人科	2,300,000	補委	文部科学省科学研究費
脳損傷時における脂質代謝酵素の発現解析	川前 金幸	麻酔科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費

低酸素ストレス負荷における脳内グリア細胞の応答と神経細胞に与える影響	伊関 憲	救急科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費
口腔粘膜の遺伝毒性試験における歯科的要因の検討	石川 恵生	歯科・口腔外科	700,000	補委	文部科学省科学研究費
訴訟症例分析とデータマイニングによる歯科医療事故防止のためのガイドラインの作成	小林 武仁	歯科・口腔外科	700,000	補委	文部科学省科学研究費
人工関節インプラント感染症における自然免疫機構Toll様受容体の機能解析	高木 理彰	リハビリテーション部	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費
放射線照射マウスにおける発生フリージカルの定量分析と経時変化の解析	野宮 琢磨	がん臨床センター	700,000	補委	文部科学省科学研究費
放射線による認知機能障害を回避する転移性脳腫瘍の治療法に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	11,250,000	補委	厚生労働省科学研究費
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	25,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
肺泡低換気症候群の病態の研究	早坂 清	小児科	5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法法の検討	小池 修治	耳鼻咽喉科	0	補委	財団法人先端医療振興財団
肺がん切除後の補助化学療法における塩酸ゲムタシン療法とS-1療法との第Ⅲ相比較試験(JSPAC01)	木村 理	第一外科	105,000	補委	財団法人しずおか産業創造機構
課題番号(19指-5):難治性ニューロパチーの病態に基づく新規治療法の開発 分担研究課題:Charcot-Marie-Tooth病の病態解明	早坂 清	小児科	750,000	補委	国立精神・神経センター
委託事業研究課題(18公-5):脳血管解離の病態と治療法の開発 分担研究課題:脳動脈解離におけるBPAS法の診断意義	細矢 貴亮	放射線診断科	0	補委	国立循環器病センター
StageⅢ結腸癌切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法との第Ⅲ相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究	木村 理	第一外科	315,000	補委	財団法人先端医療振興財団
「StageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	木村 理	第一外科	0	補委	財団法人先端医療振興財団
StageⅡ大腸癌における分子生物・病理学的マーカーによる再発high-risk群とフタヒドリミジン感受性群の選択に関する研究	木村 理	第一外科	0	補委	財団法人先端医療振興財団
虚血性心疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究-3 慢性腎臓病患者における心電図同期SPECTの有用性検討のための調査研究(J-ACCESSⅢ)	渡邊 哲	第一内科	105,000	補委	財団法人循環器病研究振興財団
治療切除結腸癌(StageⅢ)を対象としたフタヒドリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法法の個別化治療に関するコホート研究	木村 理	第一外科	73,500	補委	財団法人先端医療振興財団
課題番号(20委-14):重症心身障害児(者)の病因・病態解明、治療・療育、および施設のある方に関する研究 分担研究課題:脳形成障害の病態解明	加藤 光広	小児科	1,000,000	補委	国立精神・神経センター
課題番号(21委-6):精神・神経疾患バイオマーカー・シグナルの構築及び病因病態の解明に関する研究 分担研究課題:ARX遺伝子変異に起因する精神遅滞の分子遺伝学的研究	加藤 光広	小児科	2,000,000	補委	国立精神・神経センター

小計 21

計 46

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical and Experimental Nephrology 2009 Oct; 13(5): 452-459	High variability of albuminuria in nondiabetic population: the Takahata Study.	Suzuki K	第一内科
Respiration 2009 Sept; 78(3): 312-321	Gly80Ser polymorphism of phospholipase A2-IIID is associated with cytokine inducibility in A549 cells.	Igarashi A	第一内科
Kidney International 2009 Jul; 76(2): 183-189	Genetic polymorphisms of paraoxonase-1 are associated with chronic kidney disease in Japanese women.	Ichikawa K	第一内科
Journal of Cardiology 2009 Apr; 53(2): 179-187	Combination of conventional biomarkers for risk stratification in chronic heart failure.	Niizeki T	第一内科
Biochemical and Biophysical Research Communications 2009 Apr 17; 381(4): 554-559	A novel polymorphism in CDC6 is associated with the decline in lung function of exsmokers in COPD.	Takabatake N	第一内科
Therapeutic Apheresis and Dialysis 2009; 13: 509-514	Biological effect of anaphylatoxin C5a on the generation of anti-inflammatory substances in leukocyte adsorption.	Nishise S	第二内科
Clinical Immunology 2009; 133: 208-217	The relationship between the expression of the glucocorticoid receptor in biopsied colonic mucosa and the glucocorticoid responsiveness of ulcerative colitis patients.	Fujishima S	第二内科
Journal of Hepatology 2009; 50, 213	Reply to comments on "What can be revealed by extending the sensitivity of HBsAg detection to below the present limit?"	Togashi H	第二内科
Hepato-Gastroenterology 2009; 56: 348-351	Plasma level of granulocyte-colony stimulating factor during granulocyte and monocyte adsorptive apheresis in patients with ulcerative colitis.	Takeda H	第二内科
Journal of Gastroenterology 2009; 44 : 583-591	Down-regulation of hepatic stearoyl-CoA desaturase 1 expression by angiotensin II receptor blocker in the obese fa/fa Zucker rat: possible role in amelioration of insulin resistance and hepatic steatosis.	Yokozawa J	第二内科
Metabolism 2009; 58: 1067-1075	Impact of metabolic syndrome on elevated serum alanine aminotransferase levels in the Japanese population.	Saito T	第二内科
Journal of the Neurological Sciences 2009;277:54-57	Asymptomatic ventriculomegaly with features of idiopathic normal pressure hydrocephalus on MRI(AVIM) in the elderly: A prospective study in a Japanese population.	Iseki C	第三内科
Biochemical and Biophysical Research Communications 2009;384:378-382	Contribution of endogenous G-protein-coupled receptor kinases to Ser129 phosphorylation of α -synuclein in HEK293 cells.	Sakamoto M	第三内科
Biochemical and Biophysical Research Communications 2009;386:26-29	Association of the Ser326Cys polymorphism in the OGG1 gene with type 2 DM.	Daimon M	第三内科
Histopathology 2009;54:221-232	Expression of BAFF-R and TAC1 in reactive lymphoid tissues and B-cell lymphomas.	Wada K	第三内科
臨床神経学 2009;49(7):419-423	軸索型多発ニューロパチーを契機として診断にいたった高齢発症の神経線維腫症2型(NF2)の1例.	伊関 千書	第三内科
神経内科 2009;70(3):313-315	混合性結合組織病に合併したイブプロフェン誘発髄膜炎の2症例.	伊関 千書	第三内科

小計: 17

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neuroscience 2009;27(8):897-899	神経救急 一酸化炭素中毒.	川並 透	第三内科
Journal of human genetics 2009;54:94-97	Neurofilament light chain polypeptide gene mutations in Charcot-Marie-Tooth disease: nonsense mutation probably causes a recessive phenotype.	Abe A	小児科
Journal of human genetics 2009;54:310-312	The GARS gene is rarely mutated in Japanese patients with Charcot-Marie-Tooth neuropathy.	Abe A	小児科
Clinical and Experimental Nephrology 2009;13:659-666	Improvement of nephrotic syndrome by intensive lipid-lowering therapy in a patient with lipoprotein glomerulopathy.	Matsunaga A	小児科
Pediatric blood & cancer 2009; 52:591-595.	Lymphoma Committee, Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group. Retrospective analysis of relapsed or primary refractory childhood lymphoblastic lymphoma in Japan	Mitsui T	小児科
Pediatric hematology and oncology 2009;26:448-453	Severe hemorrhagic colitis caused by dasatinib in Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Shimokaze T	小児科
Pigment Cell & Melanoma Research, 2009, April, 22, 2):235-7.	Functional analysis of OCA4 mutant sequences using under white mouse melanocytes.	Konno T	皮膚科
American Journal of Medical Genetics Part A, 2009, August, 149A, 8 1773-6.	Oculocutaneous albinism type IV: A boy of Moroccan descent with a novel mutation in SLC45A2.	Konno T	皮膚科
Journal of Dermatological Science, 2009, Issue1, 53, 1: 76-7.	Four novel mutations of the ADAR1 gene in dyschromatosis symmetrica hereditaria.	Murata I	皮膚科
Journal of The European Academy of Dermatology and Venereology 2009, March, 23, 3: 348-9.	Mucinous eccrine naevus.	Yoshizawa J	皮膚科
International journal of radiation oncology, biology, physics. 2009;77(3):743-50.	Patterns of Radiotherapy Practice for Pancreatic Cancer in Japan: Results of the Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG) Survey.	Nemoto K	がん臨床センター
International journal of radiation oncology, biology, physics. 2009;75:348-356	Prospective comparison of surgery alone and chemoradiotherapy with selective surgery in resectable squamous cell carcinoma of the esophagus.	Nemoto K	がん臨床センター
Japanese journal of radiology. 2009;27:131-13	Comparison of cisplatin and 5-fluorouracil chemotherapy protocols combined with concurrent radiotherapy for esophageal cancer.	Nemoto K	がん臨床センター
治療 2009;92:2501-2505	放射線治療	根本 建二	がん臨床センター
山形県医師会学術雑誌 2009;37:22-34	放射線治療の進歩と問題点	根本 建二	がん臨床センター
科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン 2009: 99-101	切除不能膵癌に対し術中放射線療法の効果はあるか?	根本 建二	がん臨床センター
Pancreas Second Edition 2009.1	Histology of Cystic tumors of the pancreas.	Kimura W	第一外科
Journal of hepato-biliary-pancreatic surgery 2009;16(3):305-9.	Pancreaticojejunal anastomosis, using a stent tube, in pancreaticoduodenectomy.	Kimura W	第一外科

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器の臨床12巻1号 Page5-21(2009.02)	膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)・粘液性嚢胞腫瘍(MCN)	木村 理	第一外科
肝胆膵 58巻4号 Page485-492(2009.04)	膵石症と膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN) -膵石の発生病序も含めて-	木村 理	第一外科
Journal of hepato-biliary-pancreatic surgery 2009;16(4):493-501.	Intrahepatic micrometastases around liver metastases from gastric cancer.	Nomura T	第一外科
European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 36(2):374-7	Total thoracoscopic pulmonary segmentectomy.	大泉 弘幸	第二外科
European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 35(4):706-711	Role of diffusion-weighted magnetic resonance imaging for predicting of tumor invasiveness for clinical stage IA non-small cell lung cancer.	金内 直樹	第二外科
日本呼吸器外科学会雑誌 23(1) Page8-12(2009.01)	腹腔鏡下肺区域切除術の検討-完全モニター視下手術の早期成績-	大泉 弘幸	第二外科
日本呼吸器外科学会雑誌 23(7) Page912-917(2009.11)	Multidetector row CTシミュレーションによる肺切除術.	大泉 弘幸	第二外科
平成21年度山形県医師会学術雑誌 2009;38 Page1-16(2009.09)	肺癌の外科治療-標準手術から最先端手術まで-	大泉 弘幸	第二外科
山形県小児科医会会報 54	日常診療における小児外科疾患	江村 隆起	第二外科
胸部外科 62(9) Page827-829(2009.08)	右開胸アプローチによる大動脈弁置換術の1例.	外山 秀司	第二外科
日本内視鏡外科学会雑誌 14(4) Page479-484(2009.08)	先天性機関閉鎖症に対する完全胸腔鏡下左上大区域切除術の1例.	遠藤 誠	第二外科
日本呼吸器外科学会雑誌 23(7):932-935	小型肺癌の疑いで診断的胸腔鏡下肺区域切除術を行ったpulmonary capillary hemangiomaの1例.	加藤 博久	第二外科
胸部外科 62(13) Page1128-1131(2009.12)	大動脈炎症候群を合併した大動脈解離および大動脈弁論拡張症	前川 慶之	第二外科
日本呼吸器外科学会雑誌 23(7):974-976	胸骨前軟部悪性腫瘍に対する, 胸骨後面皮質を温存した胸骨切除・広背筋皮弁再建術	鈴木 潤	第二外科
気管支学 31(6) Page376-379(2009.11)	高周波スネアにて切除し得た気管原発神経鞘腫の1例.	深谷 建	第二外科
日本コンピュータ外科学会誌 11(3) Page400-401(2009.11)	肝切除ソフトウェアによる肺区域の描出~肺区域切除シミュレーションに向けて~.	鈴木 克幸	第二外科
日本内分泌学会誌 2009;85:102-103	内視鏡を使用した経鼻蝶形骨洞手術の治療成績 手術器具の工夫と術中MRIの使用経験	久下 淳史	脳神経外科
日本整容脳神経外科研究会第二回研究会記録集 2009;6:21-23	Pterional craniotomyにおける側頭筋萎縮の定量評価	朽木 秀雄	脳神経外科

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脳神経外科 2009;37:277-282	自然退縮を呈した鞍上部・松果体部germinomaの一例	佐藤 篤	脳神経外科
Journal of Arthroplasty. 2009 Volume 24, Page 159	Histologic examination of Leeds-Keio artificial ligament implanted on the surface of a tumor endoprosthesis.	Osanai T	整形外科
Journal of Orthopaedic Science. 2009 Volume 14, Pages 224-227	Rapid pain relief and marked sclerotic change of multiple bone metastases from a synovial sarcoma after treatment with intravenous pamidronate and chemotherapy.	Osanai T	整形外科
Development, growth & differentiation. 2009 Volume 51, Pages 669-676	Spatio-temporal expression of activating transcription factor 5 in the skeletal development of mouse limb.	Satake H	整形外科
Journal of Hand Surgery. 2009 Volume 34, Pages 1700-1703	Occurrence of central polydactyly, syndactyly, and cleft hand in a single family -A report of five hands in three case	Satake H	整形外科
Journal of Orthopaedic Science. 2009 Volume 14, Pages 100-102	Limb-sparing surgery for a calcaneal chondrosarcoma transformed from a solitary osteochondroma	Sugawara M	整形外科
Journal of Bone and Joint Surgery (Am). 2009 Volume 91, Pages 184-190	Long-term follow-up of radial shortening osteotomy for Kienboeck disease.	Takahara M	整形外科
Modern rheumatology.2009 Volume 20. Pages 147-153	Mid-term results of joint-preserving procedures by a modified Mann method for big toe deformities in rheumatoid patients undergoing forefoot surgeries	Takakubo Y	整形外科
Journal of Spine Research. 2009 Volume 20, Pages 734-738	Clinical results for total cervical fusion accompanied with expansive laminoplasty in RA patients with upper cervical instability and subaxial involvement	Takei H	整形外科
日本人工関節学会誌 2009年 39 巻:254-255	フォンダバリヌクスの投与量の相違によるセメント人工股関節術後のDVT予防効果の検討	川路 博之	整形外科
日本人工関節学会誌 2009年 35 巻:301-304	白蓋棚形成手術を併用した白蓋縁切除術の中長期成績	大楽 勝之	整形外科
Journal of Arthroplasty. 2009 Volume 24, Page 169	Histologic examination of Leeds-Keio artificial ligament implanted on the surface of a tumor endoprosthesis.	Osanai T	整形外科
Journal of Arthroplasty. 2009 Volume 24, Page 170	Histologic examination of Leeds-Keio artificial ligament implanted on the surface of a tumor endoprosthesis.	Osanai T	整形外科
肩関節 2009年 33巻 747-749	腱板断裂の大腿筋膜パッチ法術後MRIにおける修復腱の経時的変化	原田 幹生	整形外科
日本整形外科学スポーツ医学会雑誌 2009年 29巻 102-105	ジュニアテニス選手の直接検診による疼痛の実態調査 肘関節障害を中心に	原田 幹生	整形外科
東北整形災害外科学会誌 2009 年 53巻157-162	術前に診断出来なかった大腿骨骨幹部骨折に併発した頭部骨折の2例	丸山 真博	整形外科
肩関節 2009年 33巻 341-343	All-in-One Nailを用いた上腕骨近位端骨折の骨接合術後にネイルの上腕骨頭穿破を生じる原因の検討	桃井 義敬	整形外科
肩関節 2009年 33巻 491-493	腱板大断裂一次修復術後の再断裂に影響する因子の検討	村 成幸	整形外科

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
東北整形災害外科学会誌 2009年 53巻10-13	Collarless Polished Tapered (CPT) ステムを用いた人工関節全置換術の短期臨床成績	長沼 靖	整形外科
日本整形外科学会誌 2009年 29巻119-127	ゼラチンハイドロゲルと線維芽細胞増殖因子を用いた家兎半月板修復	成田 淳	整形外科
Progress in Medicine 2009年 29巻 suppl2 2941-2963	膝・膝鞘炎に対するセレコキシブ (YM177) の臨床評価 - 膝・膝鞘炎を対象とした非盲検非対照試験 (100 mg bid 試験および200 mg bid試験) -	荻野 利彦	整形外科
整形外科 2009年 60巻 1057-1060	小児骨肉腫患者における抗癌治療に伴う低骨量と脆弱性骨折	小山内 俊久	整形外科
整形外科 2009年 60巻 1157-1161	術前補助療法を行った悪性骨・軟部腫瘍の病理組織像と拡散強調画像の比較	小山内 俊久	整形外科
日本骨関節感染学会誌 2009年 23巻 79-82	Clavícula pro humero法による上腕再建後に生じた鎖骨骨髓炎の1例	小山内 俊久	整形外科
東日本整形災害外科学会誌 2009年 21巻 568-571	結核性股関節炎に対する関節固定術後に生じた大腿骨転子部骨折の1例	佐々木 幹	整形外科
整形外科 2009年 60巻 635-663	足関節捻挫を契機に発見された膜形成性脂質異常症の1例	佐竹 寛史	整形外科
臨床整形外科 2009年 43巻 573-578	背椎硬膜外膿瘍 単独に発症した硬膜外膿瘍と化膿性脊椎炎に併発した硬膜外膿瘍の比較	杉田 誠	整形外科
肩関節 2009年 33巻 487-489	上腕二頭筋長頭腱単独断裂手術例の検討	鈴木 朱美	整形外科
日本人工関節学会誌 2009年 39巻 84-85	関節リウマチ患者におけるCT-based Navigation Systemを用いたTKAの検討	高窪 祐弥	整形外科
関節の外科 2009年 36巻 97-100	滑膜切除が有効であった乾癆性足関節炎の1例	高窪 祐弥	整形外科
日本関節学会誌 2009年 28巻 251-259	リウマチ性前足部障害に対する両側同時Mann変法の短中期成績	高窪 祐弥	整形外科
東北整形災害外科学会誌 2009年 53巻133-136	高カルシウム血症に続発した石灰沈着性多発性関節炎の1例	高窪 祐弥	整形外科
日本手の外科学会誌 2009年 25巻 622-626	腱鞘内局所麻酔持続投与下に早期自働可動域訓練を行った屈指腱剥離術の成績	渡邊 忠良	整形外科
臨床整形外科 2009年 44巻 247-249	脊椎圧迫骨折後に新たな圧迫骨折が生じる因子の解析	阿部 博	整形外科
Anticancer Research 2009;29(11):4639-4347	The Akt and ERK activation by platinum-based chemotherapy in ovarian cancer is associated with favorable patient outcome.	Ohta T	産科婦人科
Biology of Reproduction 2009;80(3):493-502	Poor embryo development in mouse oocytes aged in vitro is associated with impaired calcium homeostasis.	Takahashi T	産科婦人科

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gynecologic Oncology 2009;112(2):342-347	Endometrioid uterine cancer: histopathological risk factors of local and distant recurrence.	Kurachi H	産科婦人科
Female Hepatology: Impact of female sex against progression of liver disease 2009:245	Estrogen and vasculature.	Kurachi H	産科婦人科
Current Eye Research 2009;34:652-659	Activin Inhibits Cell Growth and Induces Differentiation in Human Retinoblastoma Y79 Cells ⁷ .	Kanno C	眼科
Japanese Journal of Ophthalmology 2009;53:512-518	Effect of combined treatment with sub-Tenon injection of triamcinolone acetonide and photodynamic therapy in Japanese patients with age-related macular degeneration.	Saito K	眼科
Journal of Human Hypertension 2009;23:788-793	Angiotensin Converting Enzyme Gene and Retinal Arteriolar Narrowing: The Funagata Study.	Tanabe Y	眼科
Journal of Hypertension. 2009;27:2386-2393	Retinal vessel diameters and risk of hypertension: The Multi-Ethnic Study of Atherosclerosis (MESA).	Kawasaki R	眼科
Eye 2009;23(5):1045-1051	Prevalence and associations of epiretinal membranes in an adult Japanese population: the Funagata Study.	Kawasaki R	眼科
Retina. 2009;29:960-965	Two-year Visual Outcomes After Photodynamic Therapy in Age-related Macular Degeneration Patients With or Without Polypoidal Choroidal Vasculopathy lesions.	Tsuchiya D	眼科
臨床眼科 2009;63(2):205-210	黄斑円孔に対する内境界膜剥離手術の補助剤についての検討—ブリアントブルーGとインドシアニンググリーン、トリアムシロンアセトニドとの比較。	望月 典子	眼科
臨床眼科 2009;63(9):1447-1450	間欠性外斜視手術の矯正効果に関連する術前因子および術式筋数の検討。	羽根田 思音	眼科
Ear & Hearing: February 2009—Volume 30—Issue 1—pp 148-149	Response to Sohmer.	Watanabe T	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 81巻2号 Page137-141	ナビゲーションシステムを用いて摘出した眼窩内散弾異物の1症例	小池 修治	耳鼻咽喉科
Audiology Japan 52巻2号 Page126-132	聴性定常反応の閾値に対する加算回数と背景ノイズの影響	伊藤 吏	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会会報 60巻1号 Page16-22	Voice prosthesisによる喉頭摘出後の音声リハビリテーション 長期経過と合併症の検討	那須 隆	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科展望 52巻6号 Page426-439	聴性定常反応の臨床応用	青柳 優	耳鼻咽喉科
JOHNS 24巻5号 Page763-768	聴性定常反応検査	青柳 優	耳鼻咽喉科
Archives of Biochemistry and Biophysics. 2009;490:63-69	Aggravation of ischemia-reperfusion-triggered acute renal failure in xCT-deficient mice.	Shibasaki T	泌尿器科
British Journal of Cancer. 2009;101(12):2005-2019	Glycogen synthase kinase-3: a new therapeutic target in renal cell carcinoma.	Bilim V	泌尿器科

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
麻酔 58(11), 1441-1443, 2009-11	術前に偶然に発見された大動脈瘤の4症例 高齢者は大血管の術前評価が必要である	横尾 倫子	麻酔科
ICUとCCU 33巻8号 Page625-630(2009.08)	成人に対する高頻度振動換気法(HFO)	中根 正樹	麻酔科
救急医学 33巻12号 Page1723-1727(2009.11)	心不全症例の肺動脈カテーテル挿入	岡田 真行	麻酔科
人工呼吸 26巻1号 Page75-79(2009.05)	非侵襲的陽圧換気における新しいインターフェイス“ヘルメット”の使用経験 吸気同調性の検討	小田 真也	麻酔科
Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology and Endodontology Volume 107, Issue 4, Pages e1-e8, April 2009	Evaluation of 15 mandibular reconstructions with Dumbach Titan Mesh-System and particulate cancellous bone and marrow harvested from bilateral posterior ilia.	Iino M	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 55巻6号 Page268-275(2009.06)	チタンメッシュプレートと自家腸骨海綿骨細片による顎骨・顎堤再建.	飯野 光喜	歯科口腔外科
治療91巻9号 Page2311-2315(2009.09)	再生医学のいま 基礎研究から臨床への展開に向けて In vivo tissue engineeringによる下顎骨再建	飯野 光喜	歯科口腔外科
日本顎変形症学会雑誌 ;19(3) Page157-163(2009.08)	骨延長法による低位骨性癒着歯移動の一例-歯根損傷と歯根吸収に関する検討-	濱本 宜興	歯科口腔外科
日本歯科医師会会誌. 2009; 62(2) Page206-209(2009.05)	山形県の地域医療連携と病院歯科-地域連携クリティカルパスへの対応-	濱本 宜興	歯科口腔外科
山形県立病院医学雑誌. 2009; 43(1) Page43-46	経鼻挿管直後に鼻腔粘膜組織片と血餅により無気肺を生じた一例.	山ノ内 秀之	歯科口腔外科
日本口腔顎顔面技工研究会会誌. 2009;9(1)	歯科技工士と科学研究費「奨励研究採択の経験から」.	里見 孝	歯科口腔外科
臨床整形外科 2009年 44巻 795-802	難治性潰瘍	菊地 憲明	形成外科
Journal of Neurophysiology (102;1526 - 1537, 2009)	Neural Activity in the Human Brain Signals Logical Rule Identification.	Suzuki K	高次脳機能科
Behavioural Neurology (21:187-192, 2009)	Visual agnosia for line drawings and silhouettes without apparent impairment of real-object recognition	Suzuki K	高次脳機能科
Brain and Nerve 2009;61(11):1219-1225	FTLDの神経心理学的検討	鈴木 匡子	高次脳機能科
NeuroImage(In press) 2010 Jan 1;49(1):150-7.	Effect of sound intensity on tonotopic fMRI maps in the unanesthetized monkey.	Tanji K	高次脳機能科
Clinical Neuroscience 2009;27(4):407-409	頭頂連合野の個別機能 身体認知・注意の障害 失行(観念性失行、観念運動性失行、肢節運動性失行)	丹治 和世	高次脳機能科

小計: 17

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical neuropsychology (臨床神経心理) 2009;20:61-66	左尾状核出血における高次脳機能障害 —書字障害を中心として—	宇野 友貴	高次脳機能科
認知リハビリテーション 2009;14(1):65-71	発動性が低下した一症例に対する復職アプローチ	早川 裕子	高次脳機能科
International Journal of Radiation Oncology,Biology,Physics 2009 Oct 1;75(2):348-56.	Prospective comparison of surgery alone and chemoradiotherapy with selective surgery in resectable squamous cell carcinoma of the esophagus.	Yoshioka T	腫瘍内科
British Journal of Cancer 2009 Dec 15;101(12):1972-7.	Phase I / II study of sequential therapy with irinotecan and S-1 for metastatic colorectal cancer.	Yoshioka T	腫瘍内科
日本内科学会誌 2009年8月 98巻8号 Page1874- 1879	がん薬物療法の展開 - 固形癌の標準療法 肝癌・腎 癌	吉岡 孝志	腫瘍内科
日本環境感染学会誌 2009年11月 24巻5号 Page325- 331	末梢挿入型中心静脈カテーテルと従来の中心静脈 カテーテルの多角的比較	森兼 啓太	検査部
臨床病理 2010年3月 58巻3号 Page254- 262	変わりゆく新型インフルエンザ対策	森兼 啓太	検査部
Journal of Orthopaedic Science 2009 Volume 14, Pages 719-726	Cement removal and bone bed preparation of the femoral medullary canal assisted by flexible endoscope in total hip revision arthroplasty.	Takagi M	リハビリテーション部
日本人工関節学会誌 2009年 36 巻 97-100	変形性股関節症滑膜組織におけるTLRの発現に関 する検討	高木 理彰	リハビリテーション部
Hip Joint 2009年 35巻 844-848	大腿骨骨幹部骨折に併発した同側大腿骨頸部骨折 症例の検討	小林 真司	リハビリテーション部
東北整形災害外科学会誌 2009 年 53巻 28-32	特異性大腿骨頸部壊死症に対する改良型インプラント による人工骨頭置換術の短期成績	小林 真司	リハビリテーション部
臨床リウマチ 2009年 21巻 235- 242	関節リウマチ患者に対する生物学的製剤とリハビリ テーションの効果	村川 美幸	リハビリテーション部
救急医学 33巻6号 Page646- 653(2009.6)	【救急医療と医療安全】 救急処置と医療安全 気道 確保.	伊関 憲	救急科
中毒研究 22巻3号 Page238- 239(2009.9)	嫌酒者によるメタノール中毒の1例.	伊関 憲	救急科
中毒研究 22巻4号 Page315- 319(2009.12)	【ネット社会と中毒 自殺事例を中心として】硫化水素 中毒とインターネット.	伊関 憲	救急科
EMERGENCY CARE 22巻9号 Page809-814(2009.9)	【患者・家族の不安に応える 救急疾患説明マニュアル】 肺梗塞(肺動脈血栓塞栓症).	緑川 新一	救急科
BRAIN and NERVE:神経研究の 進歩 62巻3号 Page273- 277(2010.3)	マムシ咬傷により複視・眼瞼下垂をきたした1例.	猪狩 龍佑	救急科 (卒後臨床研修センター研 修医)
Leukemia 2009;23:761-769	Role of catalase in monocytic differentiation of U937 cells by TPA: hydrogen peroxide as a second messenger.	Yamakawa M	病理部

小計: 18

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会雑誌 2009;29(1):92-94	肺ランゲルハンス細胞組織球症の病因	山川 光徳	病理部
日本病院薬剤師会雑誌2009年4 月 Vol.45, No.4:515-517	妊婦における薬物体内動態変化と臍帯血中薬物濃 度	豊口 禎子	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌2009年11 月 Vol.45, No.11:1487-1489	塩酸バンコマイシン経口剤の安定性と矯味比較試験	金野 昇	薬剤部
医薬品相互作用研究 33巻2号 Page59-62	妊娠・授乳期薬物療法の情報提供に関する調査	本田 麻子	薬剤部

小計: 4
計: 146

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 久保田 功
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正, 看護部長 大谷 和子, 総務ユニット長 長井 孝行, 医事ユニット長 田中 清, 診療報酬ユニット長 佐藤 祐司

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録			
病院日誌		総務ユニット	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。
各科診療日誌		看護部	ファイルにて年度毎に分類, 保管している。
処方せん		薬剤部	紙面にて入院, 外来別, 月毎に分類, 保管している。
手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部 (診療記録室)	カルテ等病歴資料は、外来入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1資料袋方式で、共にコンピュータによる集中管理を行っている。 手術記録は該当患者のカルテに添付して保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務ユニット	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	高度の医療の提供の実績	診療報酬ユニット	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事ユニット	
	高度の医療の研修の実績	総務ユニット	
	閲覧実績	総務ユニット	
	紹介患者に対する医療提供の実績	診療報酬ユニット	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	診療報酬ユニット, 薬剤部	
第規一則 第一 第一 一条の に掲げ 第一 体項 制各 の号 確及 保 び の第 九 状 九 条 の 二 十 三	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事ユニット	各担当でファイルにて年度毎に分類, 保管している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事ユニット	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事ユニット	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事ユニット	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事ユニット	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務ユニット	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事ユニット	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事ユニット	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	総務ユニット
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務ユニット
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務ユニット
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務ユニット
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務ユニット
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 久保田 功
閲覧担当者氏名	総務ユニット長 長井 孝行
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 第二会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	72.3 %	算定期間	平成21年 4月1日～平成22年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	7,654	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,220	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,199	人
	D: 初診の患者の数	14,621	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方 (2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項 (3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 22 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療事故等の院内報告体制に関すること (2) 医療事故の原因分析、改善策の立案、実施及び従事者への周知に関すること (3) 医療事故防止に関する改善策の検証及び見直しに関すること (4) 医療安全管理に関する啓発及び普及並びに研修に関すること (5) その他医療安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
・ 研修の主な内容： (1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る。 (2) 病院での具体的な事例を取り上げ、職種横断的に行う。 (3) 病院全体に共通する安全管理に関する内容について、年2回程度定期的で開催するほか、必要に応じて開催する。 (4) 研修の実施内容（開催又は受講日時、出席者、研修項目）については記録する。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集、分析する。これにより、当病院における問題点を把握して、組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価し、これらの情報を共有する。 (2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し検討された効果的な再発防止策を含むものを立案する。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任（ 1 ）名 兼任（ 12 ）名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療事故等防止対策委員会の資料及び議事録の作成及び保存，その他庶務に関すること (2) 事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに，必要な指導を行うこと (3) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに，必要な指導を行うこと (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに，必要な指導を行うこと (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること (6) その他医療安全対策の推進に関すること 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	☑・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 (2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項 (3) 本院において院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針 (4) 本院における感染症の発生状況の報告に関する基本方針 (5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他、本院の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者へ報告する。 (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知を図る。 (3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容。 (2) 病院の実情に即した内容。 (3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 毎月1回院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会議で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICTラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA, 多剤耐性緑膿菌, インフルエンザは週毎にデータ把握)</p> <p>(2) 院内感染の指針に即した院内感染対策マニュアル「院内感染対策の手引き」を整備し、各部署に配布, ならびに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。 また、各部門の感染対策担当者が毎月感染制御部に周知状況を報告, ICTラウンド時にも周知状況・理解度等を確認することにより、その周知状況の把握・検証を図っている。</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (2) 本院における医薬品の管理に関する事項 (3) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (4) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (5) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (6) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 危険薬のリスト作成、病棟への配布 (4) 最大投与量のチェックシステム構築	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 45 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項 (2) 医療機器の使用方法に関する事項 (3) 医療機器の保守点検に関する事項 (4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 (5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおり。</p> <p>① 人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ② 人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ③ 血液浄化装置については、始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ④ 除細動装置については、定期点検(6ヶ月に1回)を実施している。 ⑤ 閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。 診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。 ⑥ 診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ⑦ シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医療機器添付文書等の管理 (2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報の病院長への報告</p>	